

黒谷の供養塔にお参り下さい

物故者供養塔管理委員会 委員長 田中 昇(昭和 32)

京大建築会の物故者供養塔は我々の大先輩であり、建築史の教授であった村田治郎先生(大正 12 年卒、第 1 期生)の提唱で作られました。昭和 52 年 10 月 9 日開眼法要が行われ、その後毎年 9 月に物故者の供養法要が行われています。

当初は村田先生の独走と見る向きもありましたが、3 年後の昭和 55 年、教室創立 60 周年記念事業の一つとして認知され京大建築会の一部門となりました。

国立大学の同窓会の供養塔は他に例がなくまさに我々が誇る「建築教室の文化遺産」ともいえます。「宗教の自由に反する」とか「同窓会でそこまでは」という声もあった中、英断を下され設立に漕ぎ着けられた先輩方に敬意を表する次第です。

今回委員長をお引き受けする事になったので、設立当時の資料を事務局で調べてもらったところ、村田先生の「総墓を造る話」という文章が出てきました。昭和 51 年の会報に掲載されたものです。興味深い内容なので要点をご紹介します。

1) 先生の設立の趣旨は

「現在物故会員が 160 名以上居られるのに殆どお参りしたことが無い。誠に申し訳ないことだが、お墓の所在地が不明だし、もし判っても遠方ならばお参り出来ない。江戸時代には、総墓という参拝に便利な墓があった。京大建築会諸君の総墓を京大の近くに建てたらお参りが容易であり無縁墓にならない」ということです。皆様にお参りして頂くことが前提となっています。

2) 予想される問題点として

「会員諸君の信仰宗教が単一でないが、日本では墓は許可された墓地にしか作れない。京大付近で入手できる墓地は総べて仏教寺院が経営するもので(中略)そこで黒谷の金戒光明寺に狙いをつけた。」と述べられている。当時の先生の構想には供養塔の発想はなく、あくまで墓として考えておられたようです。

3) また墓の主(入る人)は京大建築会の全員としたい旨述べられ

「辞退する人でも私は知らぬ顔をして墓主の人名簿に記入したい。」とも書かれています。これは今でも守られていて、毎年法要時に名簿に記入されたお名前が読み上げられます。

4) そして

「この構想はすでに 10 余年前に立てたもので、恐らく全国で唯一のものと自認していたところ、最近の一高同窓会会報によると、同会は鎌倉へ

「向陵塚」をたてるそうだ。但し 1 人、5,000 円抛出の人の名のみを刻むという。どう考えてみても私の案の方が、包容力があり将来のことまで考えてあってよいと思う。」と結んでおられます。

この文章を書かれた翌年、供養塔は建立され以後 34 年間法要が続けられています。会のお世話は、当初の 3 年間は川上 貢、金多 潔両先生、北尾嘉弘、大森健二両先輩が実行委員として、正式に京大建築会の一部門となった、昭和 55 年以後は京大建築会物故者供養塔委員会が担当しております。初代委員長は、横尾義貫先生が 15 年勤められ、その後 川上先生 8 年、望月秀祐先輩 7 年と引き継がれ、4 代目に私にお鉢が廻って来た次第です。

事務局から「望月委員長のご体調のこともあり、委員長を引き継ぐように」との急な話が法要直前にあり「著名な先生が歴任されている役であり、何故私ごときが」と躊躇ったのですが、已む無くお引き受けしました。

学生時代にご教示賜った先生方は殆どがご逝去になり、また社会人になってからお世話になった諸先輩方の多くがこの世を去られました。村田先生の文章には 160 人以上の故人と有りますが、現在は約 680 人の会員が故人となっております。悲しい事ですが、昭和 32 年卒の私のクラスメートも三分の一が天国でクラス会をやっています。故人となられた皆様に少しでも恩返しが出来ればというのが私の気持ちです。

先輩方の英断で発足したこの会、30 年以上続いたこの会を末永く守り立て、後輩諸君に引継いで行くのが委員会の役目でしょうが、現実はその甘くありません。

毎年法要は約 50 万~60 万円の赤字です。不足分は寄付で補っていますが、先輩方から受け継いだ基金を食い潰しているのが現状。現在の基金残高は約 950 万円。このままだと 20 年経たぬうちに会は破産します。まず「単年度赤字の解消」「追悼会の盛り上げ」から手をつけたいと思っています。会員皆様のご理解ご支援を賜りたいと願っています。

この供養塔のある金戒光明寺は東山の黒谷にあり、法然上人が開いた浄土宗の本山です。江戸時代末期には幕府の京都守護職、松平容保が本陣を置いたことでも有名です。先般のNHK大河ド

ラマ「新撰組」ではこの寺でロケが行われました。また本年は「お江」ですが、お江の供養塔もあるようです。

供養塔は高台にありますので長い階段を上がらなければなりません。供養塔からの京都市内の眺めは素晴らしい。どうぞご家族での東山御散策の際、お寺と供養塔にお参り下さい。またクラス会を京都で開催される時は、OPとして供養塔参拝を加えて下さるのも一案。京都以外の土地でクラス会を開かれる時は剰余金を会に寄付して下さいは如何。

そして9月の追悼会にはどうぞ沢山の会員が参加されますように。イベントは参加者が多ければ盛り上がり。秋の一日恩師や先輩の在りし日を偲び、お世話になった事を感謝し参加者同士の懇親も深めましょう。村田先生始め供養塔に居られる方もきっと喜ばれることでしょう。

委員一同、ない知恵を絞り今後いろいろと対策を立て、実行して行きたいと思っております。会員の皆様をお願いすることも出てくるかと思いますが、どうぞ宜しくご協力下さい。

私、委員長を仰せつかりましたが、永く勤める積りはありません。規約によれば任期は2年。全力投球して会の今後の発展を図り、2年後には京大で教員を勤められた方の中から適任者を探し出し、この任を引き継いでいただく積りです。その間よろしくお祈りいたします。

注1] この供養塔では、分納骨も出来ます。

ご希望の方は、京大建築会事務局までご相談下さい(075-383-2965)。

注2] 村田先生の「総墓を造る話」は京大建築会会報41号(昭和51年)に掲載されています。

注3] この他に「創立趣意書」昭和52年3月などの資料も事務局にあります。



京大建築会供養塔（京都市左京区黒谷 金戒光明寺内）



金戒光明寺（本堂）